

# 家庭でできる適性検査対策

## 学習習慣のポイントは国語力の構築—読書の重要性—

国語力を高める一番のおすすめはやはり読書です。

- 低学年から読書の習慣づけをした
- 受験学年になっても読書量は減らさなかった
- 読むスピードが速くなった

合格した生徒、保護者はそう話されます。特に読むスピードは適性検査には重要な能力です。から出発する人と同じように努力してください。そのような姿勢があれば、逆に準備をしたことが生きてくるはずです。

## 説明する力 - 自分の意見を相手に伝える

### 自分で考えて行動する力

公立中高一貫校において“自分で考えて行動する力”はかなりのウエイトで見られるポイントのひとつです。学校のテストや設問形式の問題は得意なのに、作文が苦手、というお子さんも多いのではないのでしょうか。作文に必要な自分の意見をまとめる力を、どのようにつけたらいいのか、家庭で出来ることをいくつかあげてみます。

### 大切な親子のコミュニケーション

親はどうしても親目線で話をしがちです。時には子どもと同じ目線、または子どもを先生にして立場を逆転させてみる。ひとりの人格として扱われることで子どものモチベーションもあがり、相手に分かりやすく伝えるにはどうしたらいいのかを考えることにつながります。強制的ではなくかつ勉強につながるコミュニケーションの一例を紹介します。

#### ○ゲーム感覚で親子で競い合う

「魚へんに〇〇でなんて読む?」「四字熟語をどんどん言ってみよう」と親子で競い合ってみる。慣れてきたら「にんべんの付く漢字を〇分以内でいくつ書けるか」

「数字の入っている四字熟語」など 難易度を上げていく

#### ○漢字テストを親子でして子どもに採点させてみる

大人は書き慣れたくせ字で書きがちです。とめ・はねなど子どもに細かい部分をチェックさせてみる。

#### ○今日、何を習った?

「学校や塾で何を習った?それもう忘れちゃったから教えてくれる?」と子どもを先生にして親は生徒になる。学は別という意識をしっかり持たせなければなりません。取り組み方がしっかりしていれば、必ず数学が得意になる力を持っているのです。

特に、子どもを先生にしてみる方法は、親に教えているうちにうる覚えだったところが自分でみえてきたり、どうやったらわかりやすい説明ができるかを自ら学ぶことにつながります。説明があやふやだと思ふ部分があったら、「ここをもうちょっと教えてくれる?まだよくわからないんだけど」などと投げかけてあげると、気づく手助けになるかもしれません。話をしているうちに頭の中が整理され、話を組み立てることに役立ちます。そういったことをすることで、作文を書く際、自分の意見を相手に伝えることを意識しながら書くことにつながります。最後に大切なのは説明がわかったら「ありがとう、よくわかった。」だけでなく「こういう説明をしてくれたから分からなかったこの部分が理解できた」と伝えてあげることです。

## 日常生活から学ぶ適性検査対策

### 適性検査で求められる『問題解決能力』

日常生活でいろいろなことを経験させたり、疑問を持たせることから多くを学ぶことができます。机に向かうばかりが勉強ではないのです。

### スーパーマーケットは学びの場

買い物の時間だって子供の頭をフル活用させるチャンスはたくさんかかれています。例えば・・・

#### ○野菜売り場で産地当てクイズ

同じ野菜でも産地は様々。お店によっても取り扱う産地が違うので、生産地を店を見て、家に帰って調べる。

#### ○収穫量当て

「みかんの収穫量 1位は和歌山。では2位はどこだろう」

#### ○これって果物?野菜?果物と野菜の定義

○食べ物から季節を感じる --- 旬の食品を目でみて学ぶ。

#### ○タイムセールで算数の勉強 --- 値引率から計算させてみる。

他にもキッチンで「ものの溶け方を観察」させたり、「合わせ調味料を作るとき割合を計算」してみたりと、生活の中で学習できることは無限にあるのです。大切なのは、子供が疑問に思ったことに対して、安易に結果のみを言わないこと。過程を考える、これが子供を成長させる大きな糧になるのです。